

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第35週（8月29日～9月4日）

今週のコメント

～手足口病・ヘルパンギーナ～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病・ヘルパンギーナ 増加続く」

第35週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,425例であり、前週比6.3%増であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症・感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ2.13、1.81、0.47、0.25である。

RSウイルス感染症は前週比7%減の419例で、南河内5.13、堺市4.58、大阪市南部2.72、大阪市西部2.10、北河内2.08であった。

感染性胃腸炎は13%増の419例で、中河内3.40、南河内3.06、泉州2.65、大阪市北部2.50、三島2.06である。

手足口病は15%増の356例で、大阪市北部4.00、三島2.35、南河内2.06であった。

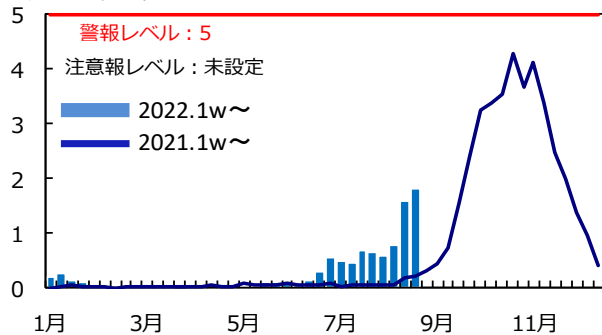
ヘルパンギーナは12%増の92例で、大阪市北部0.79、南河内0.75、堺市0.58である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は19%増の50例で、大阪市南部1.06、中河内0.60、泉州0.25であった。

インフルエンザは56%減の4例で、定点あたり報告数は0.01である。

手足口病

(定点あたりの報告数)



ヘルパンギーナ

(定点あたりの報告数)

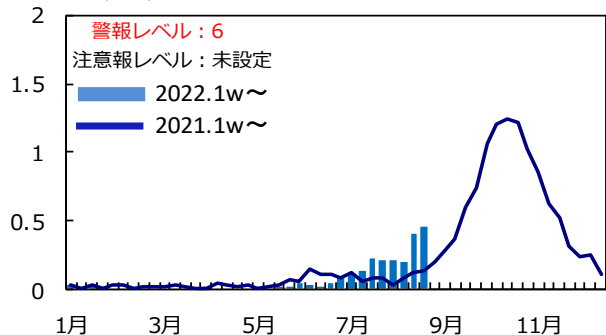


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第35週8月29日～9月4日）

第35週の 順位	第34週の 順位	感染症	2022年 第35週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第35週の 定点あたり 報告数	2022年第35週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	2.13	7%減	0.87	1歳_34%
1	2	感染性胃腸炎	2.13	13%増	2.52	2歳_18%
3	3	手足口病	1.81	15%増	0.22	1歳_39%
4	4	ヘルパンギーナ	0.47	12%増	0.14	1歳_35%
5	6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	19%増	0.31	4歳_26%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始します。

第35週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

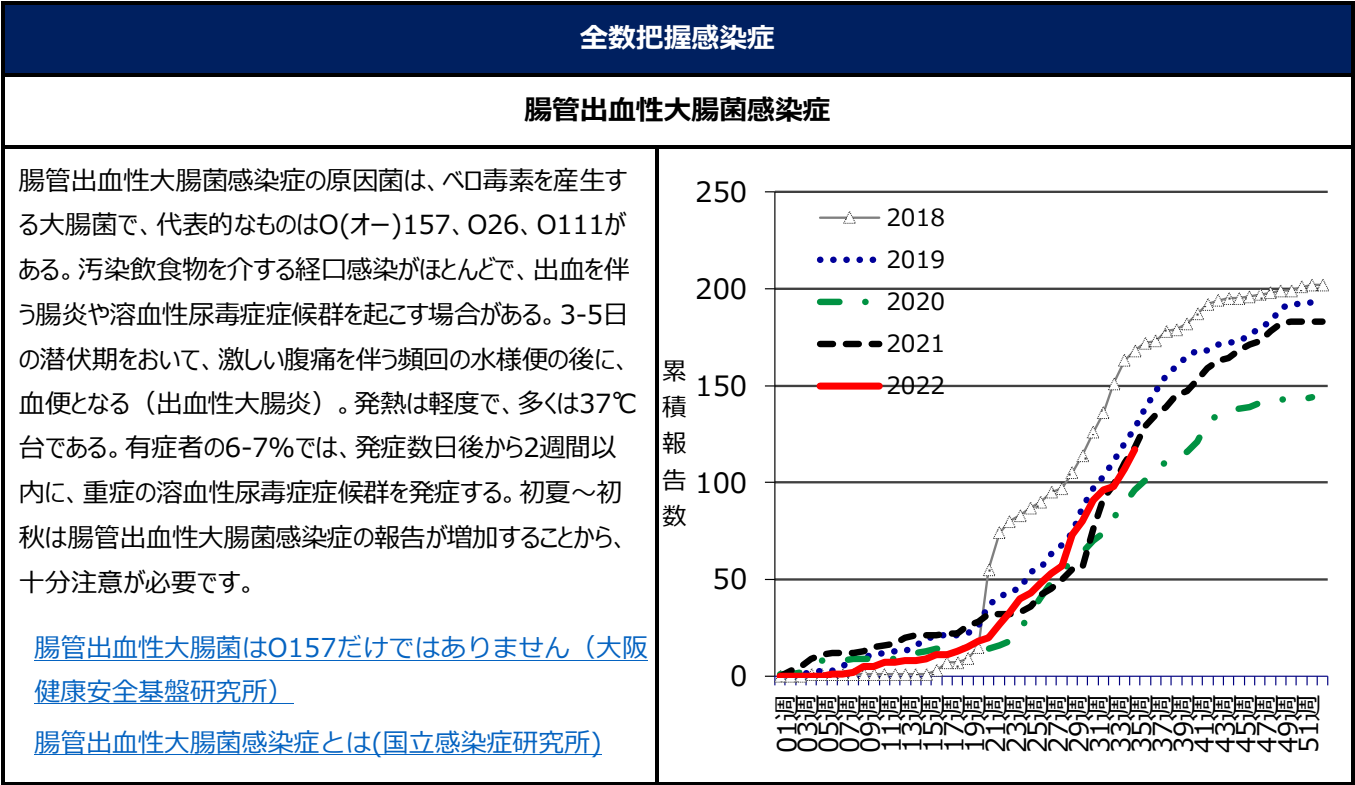


表 2. 大阪府全数報告数（2022年 第35週8月29日～9月4日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10		2		1		1		6	117
4 類感染症	A 型肝炎	1								1	5
5 類感染症	梅毒	26	2	2	2	2		1	1	16	1091
	百日咳	1								1	19
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	72,924	2020年1月以降累計 1,955,312								
結核 (2022年7月分)	結核 新登録患者数：48名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 20名) (府内累積報告数 578名、内 肺・喀痰塗抹陽性 214名)										

(2022年9月6日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)